

RELATIONS

・ Complementary : Kalibichromicum, Sepia, Sul-

phur

・ Antidoted by : Opium, Mustard, Sulphur

Alumina 酸化アルミニウム Al_2O_3 [心身の乾燥化, 高齢者と未熟児, 異嗜, 痴呆, 便秘]

Aluminum oxide- Al_2O_3

BACK GROUND

Aluminaは、世界各地のボーキサイト鉱山で産出されます。アルミニウムは、地殻を構成する元素の中で、酸素、ケイ素について3番目に多い元素です(約8%)。金属元素としてはもっとも多く存在し、鉄の約2倍とされています。

アルミニウムは、ドイツ語、フランス語と英語ではaluminium、米語ではaluminumと表記されています。前者のaluminiumは古代ギリシアでアルミニウム塩であるミョウバンをalumenと呼んでいたことに由来します。後者aluminumは、その金属光沢から、光る物a-lumineという語からaluminumと変えられて1925年の米国化学学会で採用されました。



自然界ではアルミニウムはいろいろな化合物の形態で存在していて、鉱物や土壌、水、空気、植物、動物などに含まれています。一般に、人体内には35～40mgのアルミニウムが安定した状態で存在しているといわれ、これは主に肺、骨などに分布し、わずかに血液、脳などにもあります。

また、医薬品、建築のサッシや外壁、自動車部品、貨幣、容器や包装材、調理器具、宝飾品、食品添加物、飲料缶、飲料水の浄化剤などにも、アルミニウムは広く使用されています。アルミニウムの特性としては、軽い、強い、耐食性がよい、加工性がよい、電気をよ

く通す、光や熱を反射する、磁気を帯びない、熱をよく伝えるなどです。アルミニウムは生活になくてはならないほど、多くの方面に利用されています。

1800年代はじめのアルミニウム発見当初は、非常に貴重品として扱われ、1855年のフランスの万国博覧会では粘土から得た銀として、宝石の1つに並べられていました。そのためナポレオン三世の晩餐会では、当時高価な銀食器よりも貴重なため、重要な貴賓にだけ特別にアルミニウム食器が使われていました。今では学校給食の食器にも使われています。

医薬品としてのアルミニウムは、胃潰瘍の治療薬としてよく使用されています。これは水酸化アルミニウムの胃酸を中和する作用によります。胃潰瘍治療薬のスクラルファートは、アルミニウムイオンと有機化合物が複合し、胃や十二指腸粘膜に存在するタンパク質と結合して、患部を覆うことによって粘膜を保護します。また、胃酸の成分のペプシンと直接結合して中和します。

酸化アルミニウムの天然結晶であるコランダムは、金剛砂として天然に存在しますが、極端に硬いので金属やガラスの研磨剤として使用されています。不純物の混ざっている大きいコランダムは、宝石としての価値もあり、鉄やチタンの氧化物を含むものは青く輝き、サファイアとなります。クロム酸化物を含むものは赤く輝き、ルビーとなります。そのため、酸化アルミニウムから、人工サファイアや人工ルビーがつくられます。

アルミニウムイオンは、鉄イオンとよく似た性質をもっているために、生体内では鉄輸送蛋白質であるトランスフェリンと結合しやすい性質をもっています。そのため、アルミニウムが過剰に体内に取り込まれると、鉄の代謝経路によって、骨や筋肉、脳などに沈着してしまいます。その結果、骨の脆弱化、筋肉の萎縮硬化、脳細胞の萎縮などを引き起こします。

アルミニウムの毒性は、主に中枢神経系に現われます。1976年にDr.Alfreyらによって、透析治療中の患

者が、腎臓障害のため透析液中のアルミニウムを尿として排出できず、脳に沈着して痴呆症が現れたことが報告されました。この透析痴呆症は、体内に過剰にアルミニウムが取り込まれた結果、起こった症状です。透析痴呆の研究から、アルミニウムを一定量以上取り込むと、腎臓機能障害のある人は、神経毒性症状を起こす場合があることがわかっています。このアルミニウムの脳の過剰沈着の特徴には、言語障害、四肢と顔面の間代性痙攣、行動異常（妄想癖が出るなどの性格の変化、幻覚、精神錯乱など）、記憶力の低下、総合的な行動不能症、見当識障害、痴呆などがあります。さらに高用量のアルミニウムの沈着が進行すると、痙攣発作が頻発し、死にいたりします。これらの症状は、動物でも確認されています。

これら原因としては、アルミニウムが神経伝達物質の代謝過程にある、いくつかの酵素の働きを阻害している可能性が推測されています。

加えてアルミニウムには、肺に対する毒性（肺線維症）や便秘につながる腸の蠕動運動の麻痺、視覚障害、皮膚や粘膜の乾燥化、発汗の減少、口唇部のひび割れなどの症状も確認されています。

これらの症状に加えて、さらに次のような特徴的な感覚があります。

- ・全体的なふるえを伴う虚弱化、めまいがする。
- ・粘膜部位（鼻腔、咽喉頭部、眼、肛門、性器）の乾燥化（例外として女性性器だけはかゆみのある帯下で乾燥していないケースが見られます）。
- ・顔面の皮膚のつっぱり感（顔に卵を塗って乾燥させたときのような感じ）
- ・喉に異物の破片か、魚の骨が突き刺さっているような感じ
- ・肛門から直腸にかけて切れているような感じ
- ・ギュッと締めつけられる頭痛（きついもので頭を縛るような）
- ・歩行時の踵のしびれ
- ・脊髄の下部に熱いアイロンを押し当てられたような感じ

FIRST PROVING

ハーネマン

MIND

アルミナタイプは、精神的に鈍化であり、行動も極端に鈍いと言えます。周りの状況を理解して行動したり、考えるということはできません。そのため、いつもと違う行動をとろうとするとストレスがかかります。とくに時間をせかされることに非常にストレスを

感じます。時間の経過感覚がすべて遅くなってきます。さらに進むと、思考すること自体が困難になってきます。病気はゆっくりと長期間にわたって進行します。少しの思考でも混乱をきたしてしまいます。記憶力も著しく低下します。

また、尖った物に対して恐怖を感じます（Arsenicum album, China, Hyoscyamus, Lyssinum, Silica, Spigelia）。この尖った物はSpigeliaやSilicaのような小さいものよりも、大きなナイフなどです。他にもゴキブリや出血を見ること、痴呆になるという恐怖、病気に対する恐怖、幽霊に対する恐怖などもあります。

食欲は多くはなく、不定で、果物や野菜を欲しがるようになり、肉やじゃがいも、デンプン質の食物を避けます。口の中が乾燥しているにもかかわらず、乾燥したフードを欲しがります。土などの異物を食べてしまうことがあります。外交的ではなく、1人でいることを好みます。

肉体的には、実際の年齢よりも老けて見られたり、やせていて皮膚が乾燥して張りがなく、便秘ぎみです。



AFFINITY

Aluminaは、主に脊髄、腰部、直腸、下肢、粘膜、皮膚に作用します。

CLINICAL APPLICATIONS

このレメディは、とくに精神神経系、便秘、皮膚の乾燥に対してよく使用されます。

■神経系

- ・痴呆や痴呆に準ずる各症状：上記の症状
- ・アルツハイマー病
- ・うつ状態
- ・疲労
- ・神経障害：肢が重く、ゆっくりと麻痺してくる感覚
- ・神経麻痺：足の下の方から麻痺が始まることが多いようです。
- ・筋障害

- ・多発性硬化症
- ・重症筋無力症
- ・パーキンソン病
- ・めまい：眼を閉じたり，暗闇で悪化します．前方へ倒れるような感じや，首筋の凝り，吐き気などを伴うことがあります．

■消化器系

- ・便秘：排便しようという感覚が麻痺しています．高齢者や新生児，妊娠中の女性に多い便秘です．
- ・食欲の異常，異嗜：食べ物ではない物を食べようとします．また，食べ物でもじゃがいものようなデンプン質のものは，うまく消化することができません．

■皮膚

- ・皮膚の乾燥化と苔蘚化

■眼

- ・ドライアイ
- ・眼瞼下垂

このレメディは，高齢者，虚弱な未熟児にはとくに有用です．

MODALITY

▶ 外気の暖かさ，外気，温かい飲物（喉），湿潤な

気候，冷水浴，食事など

❏ 寒さ，冬，非常に乾燥した気候，朝起きるとき，部屋やベッドの暖かさ，満月と新月，肉・じゃがいもなどのデンプン質の食事・塩，性交，喫煙など

RELATIONS

- ・ Complimentary : Bryonia, Ferrum phosphoricum
- ・ Antidote to : Lead
- ・ Antidote by : Bryonia, Natrum muriaticum, Chamomilla, Ipecacuanha, Camphora
- ・ Follows well : Bryonia, Lachesis, Sulphur

●主なAluminiumのレメディ

Aluminium oxydata, Aluminium fluoratum, Aluminium lacticum, Aluminium muriaticum, Aluminium metallicum, Aluminium phosphorica, Aluminium sulphuricum, Aluminium silicata, Alumen, Feldspar, Kali sulphuricum chromicum, Kaolinum, Granite, Slag

Ambra grisea 龍涎香 [音や音楽に非常に敏感]

Ambra grisea

Ambra ambrosiaca, Ambra maritima

BACK GROUND

Ambra griseaは，Physeter属マッコウクジラ（Physeter macrocephalus）の腸内，とくに盲腸部にできる結石様分泌物のことです．一般的に龍涎香と呼ばれています．龍涎香（アンバーgris）は，麝香と並び古くから香料中の至宝とされてきました．龍涎香は，マッコウクジラの体内から排出されて静かに海上を漂っていたり，波打ち際に漂着したものが時に発見される，あるいは死んだマッコウクジラが海岸に打ち上げられた場合に採取するといわれますが，非常に高価なものとされています．かつては捕鯨の際，鯨の解体中に採取されていましたが，1987年3月をもって商業捕鯨は禁止されて以来，この方法による採取は困難となりました．

龍涎香は，主に蠟状の塊で，小さなものでは1kgか



ら，巨大なもので100kgと，その重さ，形はさまざまです．そのままでは生臭くてとても芳香とはいえませんが，乾燥させて乳糖を加え，微量をアルコールに浸して燃やすと，溫和で高尚な香りがします．その香りは，抹香というモクレン科のシキミの葉を粉にしてつ